

# 日本の工業・貿易・流通の歴史

1. 対象学年：小学校高学年（1～2時間）
2. ねらい：ものや情報の流れである「流通」、そして外国との「貿易」にはさまざまな方法が取り入れられるようになってきた。さまざまな資料、昔から行われてきた日本における流通や貿易の歴史について関心を持たせる。
3. 進め方：テキストの通りに進める。テキストの問題を読み、子どもたちに答えさせていく形である。テキストを1枚ずつコピーして配布していく形で進めても良い。

## 主な発問・指示

<P.2>

### 1 江戸時代より前の貿易・流通

#### 〈問題1〉

写真は長野県の矢出川遺跡から発見された1万4000年から1万2000年前の黒曜石の石器です。この黒曜石は伊豆七島の神津島でとれたものです。なぜ、神津島の黒曜石が長野県から出たのでしょうか。

伊豆七島の神津島は、矢出川遺跡から約200キロメートル離れており、当時は島でした。狩りや採集で住むところを移動して生活していたと考えられる旧石器時代の人たちが、遠い地方との間でものの交換を行っていたと考えられます。

#### 〈問題2〉

東京都の国分寺市で、奈良時代の頃に国（朝廷）が作った道路のひとつである東山道のいちぶが発掘されました。次の（ ）の中の正しいほうのことに○をつけましょう。

奈良時代の頃に国（朝廷）が作った道路は、できるだけ直線的に作られていました。道幅は6～12メートルもありました。朝廷はこの道を使って各地と連絡を取り、また税を集め、人を移動させて国を支配しました。

<P.3>

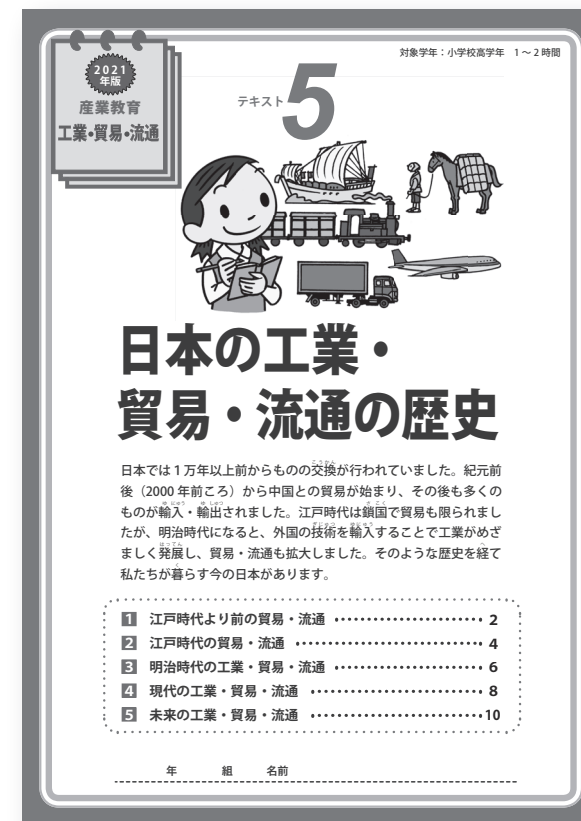
#### 〈問題3〉

下の写真は中国の明の時代に作られた「永楽通宝」という銅銭です。室町時代に日本に大量に輸入されました。日本ではなにに使われたと思いますか。正しいものに○をつけましょう。

鎌倉時代以降、ものが市（市場）で売買されるようになりました。そのため、もの売り買いに貨幣が必要になりましたが、日本では貨幣を作る技術がおとろえていました。そこで、中国（宋・元・明）からお金そのものを輸入して使うようになりました。

## 指導上の問題点

- ・テキストに名前を書かせる。
- ・予想したことを枠に書かせる。
- ・何人かに発表させる。
- ・左の写真と関連させ、右の言葉を選ばせる。
- ・教室の幅はおよそ8～10メートルほどである。そういったわかりやすいものと比べさせる。
- ・「銅銭」について簡単に説明する。
- ・「もっとくわしく」を読む。



<P.4>

## 2 江戸時代の貿易・流通

### <問題4>

写真は安土桃山時代に、日本に来た西洋人のようすを描いた南蛮屏風です。どんなことがわかるか、書き出してみましょう。

室町時代の末期（戦国時代）から安土桃山時代には、ポルトガル人やスペイン人などのヨーロッパ人が日本を訪れるようになり、貿易やキリスト教の布教などを通じて、日本にヨーロッパの文化が伝わるようになりました。

### <問題5>

下の絵は江戸時代に描かれた長崎の出島の絵です。ここでだれがなにをしていたのでしょうか。

江戸幕府は、日本人が海外に渡ることも、海外から帰ることも禁止しました。また、貿易の相手をキリスト教を広めるおそれのないオランダと中国に限り、長崎での貿易をゆるしました。これを「鎖国」といいます。ただ、長崎以外にも3つの藩に外国との貿易を許しました。

江戸時代の貿易の窓口は以下の4カ所です。

- ①長崎の出島…オランダ、中国との窓口
- ②対馬藩（現在の長崎県対馬市、佐賀県鳥栖市・唐津市周辺）…朝鮮との窓口
- ③薩摩藩（現在の鹿児島県全域と宮崎県の南西部）…琉球との窓口
- ④松前藩（現在の北海道松前郡）…アイヌとの窓口

<P.5>

### <問題6>

江戸時代には、中国（明、清）への重要な輸出品は、蝦夷地方（現在の北海道）でとれた干しあわびなどでした。蝦夷地方から長崎まで、どのようにして運んだのでしょうか。次の中からひとつ選び、○をつけましょう。

江戸時代中期から明治時代後期まで、北海道から瀬戸内海をへて大阪（当時は大坂）、江戸にいたる各地を、商売をしながら往復していたのが北前船です。蝦夷地方でとれた干しあわびも北前船で長崎へ運ばれました。

・船・建物・人の服装・動物について、それぞれの場所を確認する。

・ポルトガル・スペインの場所を地図帳で確認する。

・6年生であれば、教科書や社会科資料集の記述と関連付けて説明してもよい。

・日本地図・写真資料を使い、北前船の航路を確認する。

<P.6>

## 3 明治時代の工業・貿易・流通

### <問題7>

江戸時代と明治時代の絵をくらべて、わかったことや気づいたこと、思ったことを、かじょう書きにしましょう。

ものや人を運ぶのに、江戸時代は人力、牛馬、帆を張って風力で進む帆船などで運んでいました。明治時代になると欧米の技術である蒸気機関で動く蒸気機関車や蒸気船などが使われるようになりました。

<P.7>

### <問題8>

年表を見ながら、下の文章の①～⑥にあてはまることばを、□の中から選んで書きましょう。

江戸時代末期、欧米諸国に開国を求められ、神奈川（横浜）・長崎・箱館（函館）の港を開港しました。明治政府は、欧米の技術を輸入して、産業の育成と軍事力の強化を進めました。この方針を富国強兵といいます。人やものを早く運ぶため、1872年、イギリスの技術を使って新橋―横浜間に鉄道が開通しました。郵便制度は、1871年に手紙を送るしくみができ、さらに1892年には荷物を送るしくみの小包郵便もできました。工業の育成では、官営工場（国営工場）がつくられました。1872年に、富岡（群馬県）に、フランスから輸入した製糸機械を備えた富岡製糸場ができ、生糸が生産され輸出されました。また1901年には、ドイツの技術を使って日本初の西洋式製鉄所の八幡製鉄所ができました。

<P.8>

## 4 現代の工業・貿易・流通

### <問題9>

下の文章と年表は、工業の発展に関係するできごとです。年表も見ながら、うすい文字をなぞりましょう。

・下の枠内に「①～②～」と書かせる。

・難しい言葉は教師が読み、説明する。

・「もっとくわしく」を読む。

・年表の赤い字に注目させる。

日本の経済は、1950年代後半から約20年の間、急速な成長を遂げました。これを高度経済成長といいます。この間に、さまざまな工業が発展し、いろいろな工業製品が普及してきました。まず、1950年代後半には、三種の神器といわれた白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫が人気商品でした。次に、1960年代後半以降には、カラーテレビ、クーラー、自動車が、新・三種の神器とよばれました。このころには、工業地域が太平洋ベルトを中心に発展し、工業製品の輸出も拡大しました。1980年代後半から、日本はバブル経済とよばれる超好景気になり、技術革新や生産拡大が進みました。しかしバブル経済が崩壊すると、長い不景気に落ち込みました。

<P.9>

〈問題10〉

下の年表は、流通・貿易に関するできごとです。年表を見て、下の㉗～㉜の5つのことがらが起こった順に①～⑤に並べましょう。

日本ではトラックによる陸上輸送は、高速道路ができる以前の1950年に始まりました。船による荷物の輸送も1950年代後半にアメリカで考え出された海上コンテナによって効率化されました。鉄道でも、日本独自の鉄道用コンテナが考え出され利用されました。高速道路が整備されていくにつれて、便利なトラック輸送がますます盛んになりました。こうしたものを運ぶ方法の発達、特にトラック輸送の長所を活用して、コンビニエンスストア、宅配便などが生まれました。

<P.10>

5 未来の工業・貿易・流通

〈問題11〉

サトウキビやトウモロコシなどの植物から作るバイオエタノールが自動車などの燃料として注目されています。下の文章の( )にあてはまることばを□の中の㉗～㉜から選びましょう。

バイオエタノールが燃料として注目される理由は、植物が原料だからです。石油は使ってしまうとなくなりますが植物は何度でも育てることができます。植物は育つときに、地球温暖化の原因とされているCO<sub>2</sub>をとりこんでいるので、燃やしてもCO<sub>2</sub>の全体量は増えないからです。しかし、次のような課題もあります。バイオエタノールの値段は、石油から作るガソリンより高いので、安く作る技術が必要です。サトウキビやトウモロコシは食料でもありますから、食料が不足する心配があります。そこで、食料にならない植物から作る技術の開発が必要です。

・㉗、㉘、㉙、㉚、㉜のキーワードを年表内から見つけさせ、線を引かせるなどして目立たせると、順番に並べやすくなる。

〈問題12〉

下の文章は、バーコードにかんする説明です。うすい文字をなぞりましょう。

商品にはバーコードがついています。これを一次元バーコードともいいます。一次元バーコードは、横方向にしか情報が入りませんが、1990年代になると、横とたての2つの方向を使いより多くの情報を入れられる、QRコードなどの二次元バーコードも考え出されました。さらに、最近では、情報を記録するICチップと情報を送受信するアンテナが1つになった電子タグ(ICタグ)も開発されています。電子タグは、大量の情報が記録でき、また離れたところから情報を読み取ることができるので、さまざまな利用方法が考えられます。

<P.11>

〈問題13〉

これまでの日本は、多くの人々が一生懸命働いて発展してきました。下のグラフと文章から、今後の日本にとって問題になりそうなことを予想して書きましょう。

日本の総人口は、2010年国勢調査では約1億2,806万人でしたが、今後は人口が減っていき、2055年には8,993万人になると予想されています。また、働けるだろうと考えられる年齢の人(生産年齢人口(15～64歳)の数は、1995年以降すでに減少し始め、2010年は約8,073万人になりました。さらに2055年には約4,595万人となると予想されています。

・実物があれば見せるとよい。

- ・2010年度より前、さらに、2010年度より後のグラフの読み取りを行う。
- ①タイトル
- ②出典
- ③年度
- ④縦軸
- ⑤横軸
- ⑥グラフの傾向(だんだん増えている)など

授業の感想を書かせて終わる。